

平成25年度 第42回 かなえ医薬振興財団 助成金公募を開始しました！

「かなえ医薬振興財団」は今年 42 回目を迎える研究助成金及び海外留学助成金の公募を開始しました。

1970年に設立された当財団は、生命科学分野の斬新な研究の推進を図り、医学・薬学の進歩、発展ならびに国民の医療および保健に貢献することを目的としています。これまで42年にわたり、総勢1,450名の若手研究者を支援しています。

募集期間：平成25年6月1日～7月31日（締切）

助成種類：1. 研究助成金 総額 3,500万円（40件 80又は100万円/件）

2. 海外留学助成金 総額 1,500万円（15件 100万円/件）

3. アジア・オセアニア交流研究助成金 総額 1,000万円（5件 200万円/件）

1. 研究助成金 2. 海外留学助成金：

応募資格：40歳以下（海外留学助成金は35歳以下）の生命科学分野の研究者

対象領域：研究助成金／海外留学助成金とも、臨床医学1～4、及び基礎医学1～2の全6領域。

■臨床医学1：神経／脳

■臨床医学2：循環器

■臨床医学3：消化器／代謝・内分泌

■臨床医学4：呼吸器／免疫・アレルギー／血液／その他

■基礎医学1：癌／免疫／ゲノム／感染

■基礎医学2：神経／薬理／薬物動態／その他

3. アジア・オセアニア交流研究助成金：

応募資格：45歳以下の生命科学分野の日本人研究者

対象領域：老年医学／再生医学／感染症／疫学／医療機器／漢方／その他

詳しい情報は財団ホームページをご覧ください。 → URL：<http://www.kanae-zaidan.com/>

◆理事長よりご挨拶



理事長 生沼 斉（サノフィ株式会社 常務執行役員）

前理事長の田原一二の後任として2012年11月に着任させて頂きました。

かなえ医薬振興財団は1970年に設立され、助成事業は今年度第42回を迎えています。この間、理事、評議員及び選考委員の皆様におかれましては、医学、薬学等の分野から著名な指導者およびオピニオンリーダーを代々に亘り継続的にお迎えすることができております。役員の皆様、関係者の皆様方の多大なご尽力によりまして、生命科学分野に対する社会的貢献を継続し、医療の向上に今日もまた貢献し続けていますことは大いなる喜びでございます。

本財団は、2011年4月に公益財団法人へ移行しました。それまでの研究助成および留学助成の継続に加え、アジア・オセアニア交流研究への助成も加わりました。欧米のみならず日本の近隣地域で発展した文化や技術とも関わることによりまして、より一層斬新な研究が促進され、革新的な発見から臨床応用に至るまで幅広く研究が推進され、更には生命科学分野の発展に貢献できるものと考えております。

この伝統ある「かなえ医薬振興財団」の活動を継続し、更なる発展のため努力していく所存でございます。今後とも皆様方のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

◆名誉理事からのメッセージ



若い研究者は異文化人との交流を

河盛 隆造（順天堂大学大学院スポーツロジセンター センター長）

本財団の選考委員を永年務めたが、優れた研究の応募が多く、最新の手法、材料を存分に駆使できる現在の環境を羨ましく思ったものだ。

医学関連研究の進展がいかに早いのか、例えば糖尿病の分野においても、“血糖値”が短時間に測定できるようになったのは、たった40年前である。HbA1cが診療に活用できるようになって、いまだ30年にすぎない。多くの臨床指標を活用できる、多彩な治療薬の進展もめざましいことから、現在の日常診療では、ほんの少し前とは比較にならないほど、「より良い治療効果が発揮され、いい状況に維持出来て当たり前」となってきたはずだ。

「制御機構の異常点の是正にピンポイントに働く薬剤が開発された → 臨床使用してみると、思いもかけなかった有用な効果があることに気が付く → 新たな基礎研究でその疑問を追及する → 体内に“秘められていた”機構があることが解明される → 結果を創薬を通じて臨床にフィードバックする」、といったサイクルがすごい勢いで回っているのが、現在の医療現場であろう。医学に携わっている研究者は職種、専門領域がなにであれ、今行っている研究がこのサイクルのどの時点にあるのか、を常に認識しておくべきである。すると「論文を作成するための研究」でおさまることはなく、せめて確実に次のステップに引き継ぐ結果を得るべく努力することになる。

これらの目的のためにも、専門分野以外の分野の成果を常に意識することが大切ではなかろうか。以前は一つの医局に循環器、消化器、内分泌など様々な専門の先生がいて、毎週の医局会や研究室内の会話で広範囲の最新の知識を吸収できた。専門分化した今では、研究に携わる若い医師、研究者は、むしろ専門外の分野の講演会などに積極的に参加するといった姿勢が必要だろう。

医療の進歩には、ナノテクノロジー、物性学、制御工学などの領域との交流が不可欠となってきた。中高校時代、大学での部活動の仲間などとの会合での、異分野の研究成果などの何気ない話題から、新しい着目点を得た、という例をよく耳にする。

幅広い視野を常にもつ、という余裕が必要ということなのだろう。

◆歴代受賞者からのメッセージ

第35回（平成18年度）研究助成金受賞者



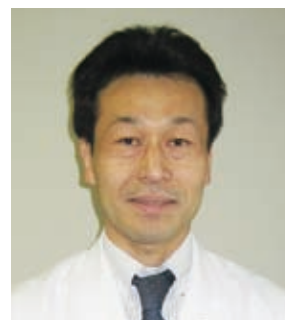
澤本 和延（名古屋市立大学大学院医学研究科 再生医学分野 教授）

毎年かなえニューズレターの「歴代受賞者からのメッセージ」を読ませていただきましたが、シニアな研究者が若手を激励する文章というイメージがあり、自分が執筆のご依頼をいただくことは予想しておりませんでした。私が研究助成金を頂いたのは7年前のことです。当時は、慶應義塾大学医学部生理学教室（岡野栄之教授）で、任期3年の寄附講座を担当する「半独立」の助教授として働いておりました。世界有数の大人数の研究室（現在では100名以上在籍しているそうです）の中の小さなグループで、数名のメンバーと一緒に自分のオリジナルな研究を開始し、少しずつ成果が出て来ました。任期切れが近づいて就職活動をしておりましたが、独立して研究室を整備する資金がないため不安を感じておりました。研究課題「脳梗塞モデルマウスを用いた障害時の新生神経細胞の移動過程における血管の役割」は、現在も私の研究室の中心テーマの一つです。当時は神経細胞の移動と血管の関係は世界的にも未開拓であり、私自身も若干の予備データを元に半信半疑で応募しました。そのような状況でかなえ医薬研究助成金に採択していただき、研究費をいただいた嬉しさとともに、研究テーマを評価して頂いたことに大変励まされたのを覚えております。この場をお借りして御礼を申し上げますと共に、かなえ医薬振興財団が我が国の若手研究者の支えとなる存在として、益々ご発展されますことを祈念致します。

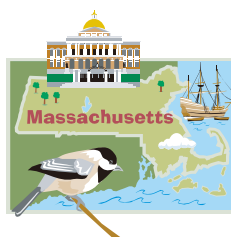
第 33 回（平成 16 年度）研究助成金受賞者

安齊 俊久（国立循環器病研究センター 心臓血管内科 部長）

今から 15 年前、米国カリフォルニア大学サンディエゴ校での 3 年間の研究生生活を終えて慶應義塾大学循環器内科に帰室いたしました。臨床に戻りたい気持ちで帰国を決意した反面、厳しい臨床業務の中、留学中の経験を生かした基礎研究を立ち上げるのに苦勞しておりました。そこで留学中に行っていた緻密な基礎研究から一度離れ、留学前より着目しておりました炎症をテーマに、臨床と基礎をつなげるトランスレーショナル研究を始めました。まずは臨床研究で心筋梗塞後の過剰な炎症が不良な予後をもたらすことを突き止め、その後、心筋梗塞の動物モデルを用いて、単球・マクロファージの活性化が左室リモデリングを悪化させることを明らかにしました。これらの予備結果をもとに、かなえ医薬振興財団より助成金を賜る幸運を得ることができました。研究基盤を整えることができたお蔭で、研究対象も心筋梗塞、心不全だけではなく、大動脈解離、腹部大動脈瘤、心腎症候群、メタボリック症候群などさまざまな分野に広げることが可能となりました。平成 23 年より、豊富な症例と研究環境に恵まれた国立循環器病研究センターに異動し、高い志を持って全国から集まる多くの若者達から刺激を受けながら、心不全の病態解明、新たな治療法開発に向けて日々精進しております。研究者として重要な時期に多大なるご支援を賜りましたかなえ医薬振興財団に深謝申し上げるとともに、今後の益々のご発展を心より祈念いたします。



◆海外留学レポート



第 33 回（平成 16 年度）海外留学助成金受賞者

金崎 啓造（金沢医科大学 糖尿病内分泌内科学 講師）

私は 2005 年より米国マサチューセッツ州の Harvard Medical School, Beth Israel Deaconess Medical Center, Prof. Raghu Kalluri(以後 Raghu) のラボに post-doc として留学し、病的血管新生制御の研究を行いました。最初の独立プロジェクトは、妊娠高血圧腎症モデル動物の作成でした。このプロジェクトの難関は毎日の血圧測定であり、くる日もくる日も臍栓を確認、薬剤の投与、血圧測定を行いました。そのように毎日一定の時間を研究に費やす事も留学中しかできない、と自分に言い聞かせただけで愚直に続け、漸く 3 年目に結果を残す事ができました。自分の持てる時間、気力すべてを研究に没頭する事はまさに留学の醍醐味でした。さて Raghu は私に、その先見性、妥当性、重要性において、いかにインパクトのある仮説を提唱するか、この大切さを繰り返し様々な機会を通して教えてくれました。Raghu は研究に関しては大変厳しいですが、普段は気さくに話しかけてくれ今も時々 skype で話します。彼と過ごした経験は今も私の研究姿勢の根本を形成しています。2008 年よりインストラクターに昇進させていただき、当地の大学院生や post-doc の指導に参与し、当時指導した post-doc が現在後輩研究者を私のもとに送ってくれております。このような貴重な機会をサポートし、キャリアアップに偉大な貢献をしていただきました、かなえ医薬振興財団様に深く御礼申し上げますとともに、益々の御発展を祈念いたします。



◆平成24年度 事業報告

〈研究助成事業〉

平成24年度 第41回の助成事業は、6月1日から7月31日の公募期間で、研究助成金455件、海外留学助成金168件、アジア・オセアニア交流研究助成金24件の応募がありました。10月開催の選考委員会で厳正な選考が行われたのち、理事会の承認を受け平成24年度の助成金交付者が決定されました。研究助成金は、1件あたり100万円又は200万円で40名に総計4,300万円、海外留学助成金は1件あたり120万円で15名に総計1,800万円、アジア・オセアニア交流研究助成金は1件あたり200万円で5名に総計1,000万円が贈呈されました。

〈業績集の発刊〉

平成22年度 第39回の研究助成金受賞者の研究報告書を纏めた「受賞者研究業績集 第39集」を作成しました。昨年度より財団ホームページ上で公開しています。CD版送付のご希望はお知らせ下さい。

該当の先生方にはご多忙のところ、貴重な時間を割いてご協力いただき深く感謝申し上げます。

■収支決算報告

正味財産増減計算書

平成24年4月1日～平成23年3月31日

(単位：円)

科目	金額
・経常増減の部	
基本財産受取利息	48,131
特定資産受取利息	7,520
受取寄付金	83,000,000
雑収入	16,330
経常収益計	83,071,981
・経常費用	
事業費・研究助成金	43,000,000
・海外留学助成金	18,000,000
・AO交流研究助成金	10,000,000
・その他	6,604,192
管理費	5,595,036
経常費用計	83,199,228
経常外費用計	0
当期経常増減額	-127,247
一般正味財産期首残高	29,095,522
一般正味財産期末残高	28,968,275
指定正味財産期末残高	120,000,000
正味財産期末残高	148,968,275

貸借対照表

平成25年3月31日現在

(単位：円)

科目	金額
・資産の部	
流動資産	3,968,275
固定資産	145,000,000
資産合計	148,968,275
・負債の部	
流動負債	0
固定負債	0
負債合計	0
・正味財産の部	
指定正味財産	120,000,000
(うち基本財産への充当額)	(120,000,000)
一般正味財産	28,968,275
(うち特定財産への充当額)	(25,000,000)
正味財産合計	148,968,275
負債及び正味財産合計	148,968,275

発行

公益財団法人かなえ医薬振興財団 事務局

東京都新宿区西新宿 3-20-2 サノフィ株式会社内

Tel: 03-6301-3090 FAX: 03-6301-3094

E-mail: kanae.zaidan@sanofi.com

URL: <http://www.kanae-zaidan.com/>

■ご協力お願いします

このニュースレターは歴代受賞者及び応募関連領域の先生方を中心に約250部発行しております。もし、送付先に変更がありましたら、登録情報を更新させていただきます。お手数ですがemail等でご連絡いただきますようよろしくお願い申し上げます。